

2 ふじさん工水への官民連携手法の導入に向けた取組の進捗状況

(経営課・水道企画課)

1 要旨

今後も安定的に事業を継続していくためには、施設の維持管理と更新の最適化を図りつつ、効率的な施設運営へと転換していく必要がある。このような背景を踏まえ、新ポンプ場の整備を契機に、令和6年度からふじさん工水へ官民連携手法を導入することとした。

2 概要

(1) 今回の官民連携手法導入に期待する効果

効果	内容
コスト削減	他浄水場の運転・維持管理における知見やICTの活用等、民間の創意工夫を活かした効率的な維持管理によるコスト削減を期待(仕様発注 性能発注) 最も安価な見積結果を基に試算 7年間で3.5億円の削減
最適な施設整備	設計・施工から運転・維持管理の作業効率までのトータルで最適となる新ポンプ場の整備を期待
民間ノウハウの移転	運転・維持管理について、モニタリング等を通じて民間の技術やノウハウを学び、他の工水や水道事業へ水平展開
次期事業に向けた準備	本格的な施設更新を進めるに当たり、民間活用の効果を見極めるとともに、コンセッション等の本格的な官民連携の導入に向けた準備期間とする

(2) これまでの取組

時期	内容
令和4年3月~10月	ふじさん工水官民連携手法導入可能性調査の実施
令和4年12月	局としてふじさん工水への官民連携手法の導入方針を決定 新ポンプ場整備へのDBO手法の導入 管路を除く浄水場施設等への包括委託の導入(R6~R12) 次期長期更新計画の策定
令和5年3月	民間コンサルタント会社と包括委託発注支援業務契約を締結
令和5年5月	マーケットサウンディング(民間企業ヒアリング)の実施 ・参加企業11社(電機・機械メーカー、維持管理会社、ゼネコン等) ・事業範囲、リスク分担、保守点検・修繕の範囲、要求水準、任意事業の意向、参加資格要件等についてヒアリング

3 今後の取組

事業者の選定に向け、民間企業の意見を参考に東部事務所と協議を行いながら、実施方針、要求水準書、募集要項、開示資料、契約書案等を作成していく。

